

平成 29 年度 第 1 回 二宮町図書館協議会 会議録

日時：平成 29 年 6 月 16 日（金）

場所：ラディアン ミーティングルーム 1

出席者：（協議会委員）石井会長 桐岡委員、相澤委員、三宅委員、吉澤委員、松本委員、佐々木委員
（事務局） 府川教育長、鐘ヶ江教育部長、椎野生涯学習課長
三浦図書館長、丹羽図書館班長、稗田主査

傍聴者：なし

資料：・会議次第

・委員名簿

・資料 1 平成 28 年度二宮町図書館利用統計（個人）

平成 28 年度二宮町図書館予約・リクエスト・参考業務統計

平成 28 年度二宮町図書館 延長開館時（17 時～19 時）の平均入館者の推移

平成 28 年度二宮町図書館団体貸出統計

平成 28 年度二宮町図書館 サービス指標

二宮町図書館蔵書統計

平成 28 年度二宮町図書館事業報告

平成 28 年度二宮町図書館行事等実施報告

二宮町図書館基金の報告・修理ボランティア活動報告

書架整理ボランティア活動報告

「平成 28 年度二宮町図書館サービス充実のための重点目標」実施状況（結果）

二宮町図書館利用者の声より（平成 29 年 1 月～平成 29 年 3 月）

・資料 2 平成 29 年度二宮町図書館事業予算

二宮町図書館雑誌スポンサー制度広告雑誌・個人寄贈雑誌リスト

二宮町図書館継続受入雑誌一覧

平成 29 年度二宮町図書館事業計画

・資料 3 平成 29 年度二宮町図書館サービス充実のための重点目標

平成 29 年度主要事業計画書

二宮町図書館サービスの充実について①・②

会議次第：1. 開会

2. 委嘱状の交付

3. あいさつ 教育長 府川陽一

4. 自己紹介（委員及び事務局職員）

5. (1) 平成 28 年度図書館利用状況及び事業報告について

(2) 平成 29 年度図書館事業予算および事業計画について

(3) 平成 29 年度二宮町図書館重点目標について

(4) その他

議事録（議事に関わる質疑応答のみを抜粋）

議事進行

会長が司会進行

議題(1)平成 28 年度図書館利用状況及び事業報告について

会 長：ご質問等ありましたら。

委 員：にんぎょうげき大会の会場はホールですか。

事務局：ミーティングルームです。

委 員：内容は。

事務局：「てんぐのうちわ」と「ぐりとぐら」です。

委 員：子どもが怖がって退出したのは「てんぐのうちわ」ですね。

事務局：会場内を回って走ってカラスが追いかけていくところで、子どもが何人か出て行ってしまい、次に天狗が出てきて、大きくて怖いのでまた何人か出て行ってしまった。

委 員：被り物ですか。

事務局：そうです。カラスが結構大きい感じで。人形だけじゃなく、被り物に迫力があつた。子どもの付き添いの大人もかなり集中して見ていた。

委 員：次回もまたこういった企画はありますか。

事務局：「おおきなたまご」さんと「てぶくろ座」さんに来年もぜひやってくださいとお願いしている。

委 員：ありがとうございました。

会 長：他にいらっしゃいますか。

ちょっといいですか。3 ページの延長開館の時の入館者は、27 年度より少し減ってきていますね。その数字に子どもは入ってないですね。要するに青少年から上の方がこられるということですね。そうでもないですか？17 時以降。

事務局：親御さんと一緒にこられる場合はありますが、ラディアンの中で習い事をやっていたり等、そういうのもあつたりするので。基本的には保護者がいない場合は家に帰らなければいけないので、子どもだけの利用はないです。

会 長：時間帯としては 19 時までいる人というのは多いですか。

事務局：学習室を利用してそのままいる方、あとは仕事帰りに寄られる方が何人かいる感じがす、若干名。

会 長：レファレンスで子どものレファレンスが多かったとありますが、どんな状況ですか。

事務局：子供の関係のレファレンスを、夏休みは毎日やっていたので、夏休みの宿題の関係がやはり多かったというのと、あとは乳幼児の親御さんなどがおすすめの絵本を聞いたりということがありました。あとは大人が、大人用の本でなく子供用の本で探したい、など。

会 長：その人たちは子どものカウンターに来るんですよね。

事務局：はい。こどものほんコーナーに専用カウンターを設置してありますので、そちらで受け付けます。もしくはこちらで声をかけたりもしています。

会 長：まあだんだんそういうのが出てきたってことですね。

もう一ついいですか。11 ページの図書館基金ですが、諸星さんなど毎年多額に寄付してくださる方から理由はつかないで頂くことが多いのでしょうか。例えば健康の資料とか、そういうものを買ってほしいなどというのはなくて、基金としていただいて自由に使ってくださいという感じですか。

事務局：そうですね、特に申し送り等あればお聞きしたいとは思いますが。諸星さんは直接届け

られるのでご希望を伺っています。諸星さん以外の方は大抵ふるさと納税という形でインターネット等で振り込んでこられるので。入れたからこういう風にしてよとご連絡いただければ考えたいとは思いますが、今のところは諸星さんにお伺いしているだけです。

会 長：諸星さんはどのような事を希望していますか。

事務局：寄付を沢山頂いていて、感謝の意もあり、諸星さんのお話を図書館だよりに載せさせていただきましたが、とにかくご自分が苦勞しながら財を成していく過程で本が本当に役に立ったという事で、特にビジネス書だとか成功談だとかそういったものが役に立ったそうです。大人になってからでもよいですが、できれば中学生とかそういった若い人が若いうちにそういうものを読んで勉強して頂きたいとおっしゃっていました。

会 長：ふるさと納税はいいとして、諸星さんが言われるような、基金の目的じゃないけど、どういう形で入れて欲しいかというのがあるとすると、そういうのを踏まえて基金を使わなければいけない要素が一つありますよね。

事務局：諸星さんが言われているのは、自分もいつまで寄付できるか分からないので、第二第三の自分を作ってください、諸星さん自体は今シルバーに所属されてラディアンに勤務されているご友人がいらっしゃってその関係で図書館に良くしていただいているというのがあると思いますが。そういう方もいないと難しいと思っはいるのですが、諸星さんの名前を使って宣伝をなささいということは諸星さんに言われたので、今回ツイッターやフェイスブックの方にも諸星さんの名前を出させていただいたり、図書館だよりも大きく載せたりしました。そういったご助言も頂けるので大変ありがたい。

会 長：基金もたまると大変なので、少しずつ対応して使った方がよい。目的を持って基金を使うかですね。

事務局：昨年度、町の財務担当と話し合いましたが、計画的に使いましょうという事で、27年度に初めて図書館基金を町制 80 周年ということで切り崩して健康医療関連図書コーナーというのを作り、その後も毎年少しずつ充当していく案を出したので、この年は何、この年は何という形でここ数年の購入の計画は立てながらやっと思っています。今年度に関しては、諸星さんにも言われていた、こどもの本で伝記ですとかそういった人生に役立つものを多めに入れたいなと思っています。あと健康コーナーとティーンズコーナーの本を少し多めに買いたいと思っています。

会 長：他にありますか。

委 員：13ページの子育て支援事業についてなんですけど、ブックスタート事業、私もボランティアとして関わっているんですけども、健診の時なんて二宮町のお母さん全員がブックスタートは関わることになるので、4か月の子どものお母さんは本当に素直に、わらべうたのチラシのご案内などをすると、ぜひ行ってみますと素直な感じで受け取られる。ブックスタートの時に図書館関連や子育て関連のチラシ類を、私たちが直にお知らせできるので、とても有意義な時じゃないかと思っています。若いお母さんたちがそこで得た情報で、これから少しずつでも赤ちゃん連れで図書館に行って、これからの子どもの図書館利用に親子共々できるといいなと思っています。小学校に行くとなかなか稽古事や塾などで忙しくて、なかなか来られなくなってしまうんですが、赤ちゃんから幼児期に図書館を親子で利用した経験というのは、きっとどこかに積み重なっていくのではないかと思うので、ブックスタートの時、なるべくわかりやすい資料をお母さんたちに配布するというのを、今まで以

上にもう少し体裁とか色々考えてお渡しすればいいかなと思っています。その後のお母さんたちの図書館の利用の状況というのは実感としてどうかを伺いたい。

事務局：6月7日にブックスタートでわらべうた乳児編のチラシを配っていただいたんですが、その次の日から3日後くらいに申し込みが多くて、チラシを配りながら生の声でいいよと言っていたくとやはりお母さんたちもそんなによいのだったら行ってみようという感じだと思うのでこちらは助かっている。

体裁を整えるというのは、どういうことでしょうか。

委員：わらべうたのチラシはわかりやすいので、とても簡単に説明できる。図書館の案内なども、1枚でいいので、分かりやすく、利用案内というよりはここにこういうコーナーありますといった、写真入りのものを簡単に作ってお渡しする方がいいかなというイメージではあった。

事務局：行事カレンダーとかでなく、もっと図書館の中の紹介などですね。

委員：赤ちゃんコーナーありますよとか、コーナーを写真でここですよとか、そういう感じの方が分かりやすい感じがしました。

事務局：ボランティア講座の時に1枚作って配ったりしたのでそれをちょっとお見せしたい。

委員：お母さんたちは忙しくてなかなか冊子状のものを読む時間はないと思う。視覚的にぱっとわかる方が印象に残るかなと思う。

委員：そうですね。子ども向け行事の一覧も1枚にまとめてあると手に取りやすいし伝わりやすいかなという感じはします。

委員：これでぜんぶ言おうとしない方が。「赤ちゃんコーナーです！」みたいな。赤ちゃんが泣きわめいているときに、これでは読めない。これをもうちょっとアレンジしてこの色で。大きさもこの位の方がいい。

委員：簡単なほうが多分いい。

事務局：早いうちに。

委員：そうですね。

事務局：今のお話で思い出しましたが、二宮中学校にティーンズコーナーのチラシを作って持って行っていただいた時も、おはなし会さんがおはなしをした後、ティーンズコーナーのチラシを生の声を添えて手渡してくださったので。夏休みに、あなたたちの仲間が図書館で話をしたよと。そうしたら、すごく興味をもってくれたということだったので、本当にそういうことをしていただけるとありがたいと思います。

会長：ちょっと検討していただいでできるだけ分かりやすくしてあげる。

事務局：おおきいおはなし会の件ですが、小学校でやっているおはなし会と同じように小さい子向けじゃないよというところをもっとアピールしていけたらと。

おおきいおはなし会のとき、児童コーナーに何人か小学校3年生から5年生くらいの子が、本を読んだりしていたので声をかけましたが、おはなし会？みたいな感じだったので。図書館に来るのですから本も好きだしおはなしも好きだとは思っているので、もうちょっとPRができたかなと思いました。

会長：おおきいおはなし会じゃ分かりにくいというのがありますね。

委員：おおきいおはなし会とちいさいおはなし会というのはどこが違うのですか。あとブックス

タートとはなんでしょう。

事務局：説明します。ブックスタートは、もとはイギリスの発祥の活動として、赤ちゃんに絵本を与える、絵本をただ与えるのではなく人の手を介して読み聞かせをしたりして最初の出会いを与えてあげるといった活動です。日本では、児童書の出版社が目をつけて始まったという経緯があります。二宮も平成22年から行っており、まだ10年は経っていませんが、ちょうど昨年あたりブックスタートを受けた子が小学生になっている。二宮町では、赤ちゃんがはじめて法的な健診を受けるのが4か月健診で、そのタイミングでおはなし会さんにいっていただいて一組一組絵本を手渡して絵本を読んであげて、お母さんに赤ちゃんに見せるってこういう事だよって伝えながらやるんですけども、その時に赤ちゃんの表情が赤ちゃんも絵本が分かるのか、というくらい目がかつと見開きます。多分内容は分かっているとは思いますが、お母さんとのふれあいっていいのですか、絵本を通した、お母さんの方もそういうものを使えば赤ちゃんに触れ合えると分かるとか色々な効用がありますので、そういったことを行っています。22年からは二宮の町民なら全員受けています。

ちいちゃいおはなし会、おおきいおはなし会、もう一つおはなし会とおりがみ教室と3パターンおはなし会があります。もともとのおはなし会とおりがみ教室というおはなし会がありまして、子ども向けにおはなしやったり折り紙を一緒にやったりというのがあったんですけども、年齢別のおはなし会をした方がいいということがありまして、普通のおはなし会より小さめと大きめという意味で名前をつけました。現在、ちいちゃいおはなし会は1歳から3歳が対象となっていて、おおきいおはなし会は小学生以上ということで大人も聞きたかったらどうぞということですが、先ほどのおはなし会もありますので、ネーミングに関しては今後考えた方がいいかなというのがあります。今の説明で大丈夫そうですか。

委員：はい。おおきいとは、規模が大きいのかなと思いました。

課長：ちいちゃいおはなし会が先にあったから、それに対しておおきいおはなし会になった。

事務局：そうですね。

委員：大きい子向けの、ということですね。

事務局：はい。

委員：おはなし会というと、話し合う感じに聞こえるのでは。もしくは読み聞かせを聞く、エンジョイするという事に対する抵抗感があるとか。僕は自分で読めるよ、みたいな。ネーミングがどうなのか。朗読っていうのも変だし。

委員：小学生は各小学校全校全クラス行っているんで、おはなし会の意味たぶんは分かると思います。

会長：小さいとか大きいとか言わなければいい。

委員：そうですね。以前は、子供の数も多かったのですごく沢山来て、普通のおはなし会も40人50人位来ていたことがあって、冬でもおはなしの部屋はクーラーつけないと暑いくらいだった。私たちもちょっとかっこいいネーミングにしたいという風にしたのですが、今は本当に人数が減ってしまって、1人とか3人とかってということもある。ここで原点に立ち返って本当に分かりやすい小学生のためのおはなし会とかわかる様に、今改めて聞くとそんな気がします。

委員：確かに分かりにくいかもしれませんが、言っていただいてよかったです。

会長：その辺は少し、大きい子のおはなし会の名前ですね。つけ方をちょっと検討してください。他にありますか。

では議題2について説明をお願いします。

議題(2)平成29年度図書館事業予算及び事業計画について

会長：議題の件で何かありましたら。

事務局：補足ですが、中学生・高校生・大学生・教員の職場体験というのがありまして、大抵8月に受入れをしていて、教員はここ数年ないのと、中学校は、西中はちょっと日程の関係でこの所受けられていないのですが、二宮高校さんは今年度もお話しをいただいています。昨年度、職場体験の高校生にも参加してもらうよう、中学生との意見交換の日を設定したのですが、今年も同じように考えていますので、今年も職場体験で来ていただけるようでしたら、高校生の意見が聞けるとこちらもありがたいと思っております。よろしくお願います。大学生は、昨年からはまったのですが、町が神奈川大学と提携の協定を結んだ関係で、インターンシップの受け入れがあります。こちらは今募集をかけているところです。

会長：ありますか。

委員：2点あります。20ページの予算のところでは臨時の方の賃金は昨年度と同じで非常勤の方は少し減っている。先ほど児童コーナーに人を配置して素敵なエプロンまでしてそこにいてくださるといふ、後で説明があると思うんですけども、児童コーナーに人が行くことですが、人は多くなっていないので、そのやりくりというか、どういうところをどのように考えて児童コーナーに人を配置していただけることになるのかを伺いたいのと、小さいことですが、図書館だより発行のところではPR版を3月に発行ということですが、昨年度3月だから、今年度も3月なのでしょうが、3月は、子供達は学年が変わったり、大人も異動したりという時期なので、できたらもう少し年度の初めの方というか、今年はまだ始まっているので、もう少し前にした方が、より有意義な気がしたので、そういうところはどうかかなと思ってお伺いしたい。

事務局：図書館だよりですが、昨年度3月になってしまったのは色々検討していた結果、3月になってしまったということもあります。ただ、今言われたことと似ていると思うのですが、新生活を始めるとかそういったタイミングでもよいのかと。すると、3月の末に出しても4月に出したのと一緒位の意味かなと思うのですが、それよりもっとあとの方がいいでしょうか。

委員：いつがベストともいえないのですが、心情的には、4月になって各自体制が整ってから、図書館にこういうのがあるのね、といったことに目が行くのでは。

委員：実際、皆さんの感じ方がどうかは分かりませんが。

事務局：逆に頭に出すのはかなり難しい。それこそ、出す方の人の体制が整っていない中で、誰がやるとかという話になってしまう。準備しておいて4月に出すというのはありかもしれない。

委員：別に4月じゃなくてもいいのですが、3月ではなくもう少し、夏休み前とか。今年度はもう色々計画があると思いますが、年度のなるべく早い時期に出した方が一年間のPRになると思った。

事務局：読書の秋とかどうですかね。あと子どもの本コーナーの相談員ですが、議会でもとりあげ

られまして、もう少し増やせないのかというお話もいただいています。ただ予算は増えない。昨年度本格始動したのですが、夏休み毎日半日ずつ配置する予算がついたので、その範囲で設置し、さらにプラスで毎月ちいちゃいおはなし会と、おはなし会とおりがみ遊びの時に配置し、結局夏休み以外も月に2回は相談員の配置をしていました。今年度は、予算が増えない中でさらに増やすという事になったので、無理のない範囲ということで考えまして、週に1回程度、月に3、4回、以前の倍くらいでということ考えております。昨年度末位から言っておりますが、効率的な運営等も考えなくてはいけない。カウンターの人数のやりくりすると同時に、なるべく無理のない範囲で、今年はちょっと試行的なこともやりつつ、来年度以降の予算について考える上で、それらをミックスして色々体制を考えながらやっている。

委員：非常勤の減は、少しですがこれは日数の関係ですか。

事務局：はい。

会長：24ページのさっきの繰り返しじゃないけど5番と6番でおおきいおはなし会とちいちゃいおはなし会。おおきいおはなし会は大人まで対象ですね。

事務局：はい。小学生以上という事で大人も参加できるということなのですが、今後は先ほどの話も踏まえてどうするか。

会長：現状的にはどんな具合ですか。

課長：大人は大人でおはなし会がありますし。

委員：大人は、ボランティア講座に参加したご夫婦が参加されたり。その他は子どもあと2、3人。一人ということあります。

会長：小学生ですか。

委員：はい。

委員：土曜日という曜日が無理なのでは。サッカーなど、結構忙しくてみんな予定がつかまっているのでは。

会長：例えば、学校と一緒に何かできることはないですかね。あと、小学校低学年から大人までだと、出し物も絞られる。子どもたちへの呼びかけも必要ですが、ネーミングも分かりやすく対象もどうしていくか考える必要がありそうです。

委員：おはなし会のメンバーの負担は増えるかもしれないけど、同じ日に行うのではなく、日を改めるもの方法の一つかと。

会長：現状的に来られる人が少ないようだともうちょっと考え直した方が。

事務局：ちなみに昨年からこわいおはなし会というのをやっています、その時は小学生と幼児合わせて27人も来た。ターゲットは小学生だったのですが、幼児も来てしまった。こわいおはなしはみんな大好きなので。ただ、やりようで小学生も来るといことです。ちなみに、昨年度は平日の夕方にやったので、開館時間内にやったのですが、今年は土曜日5時に閉まった後に、閉館後の図書館に入れるということでやってみようかと。

委員：特別なシチュエーションですね。

委員：ナイトミュージアムみたいな。

事務局：そこまで深夜ではないですが。

会長：色々工夫していくともっとくるかもしれないですね。

委員：事業計画の方にそのこわいおはなし会というのが入っていないんですけれど。

事務局：4番5番の注釈の所で。

委員：これですね。わかりました。別じゃなくこの中で。

事務局：おはなし会の日程的には土曜日は同じですが時間帯をずらしてやる。

委員：なるほど。わかりました。

事務局：昨年度は通常のおはなし会にプラスしてやったので、おはなし会の方が大変だった。今年
は普通のおはなし会をお休みして、代わりに行います。

委員：なるほど。

会長：まだありますか。

委員：せっかく中学校の立場で来ておりますので、お話をさせていただきたいと思います。今週の火曜日、年度初めての読書集会というのを行いました。本校は朝読書がかなり定着していてもう5年間くらいになります。子どもたちは本をよく読んでいて、たぶん二宮中学校も同じだと思いますが、やり方として、もう一回読書集会の時、あと朝読書の日とか、教員からの本の紹介などを行っています。体育館に全員が本を持ってきまして、本の紹介とか意義とか最後は5分間だけ本を読むというか味わうというか、非常によかった。その中で読書の紹介を私も指名されまして、どんなものがよいか、立場上校長なので、純文学とかがいいのかと、学校司書に相談した。そうしたら、先生そうじゃなくて自分が中学校の時楽しかったものを紹介しなさいよと言われてまして、横溝正史を紹介した。しかも「病院坂の首くくりの家」という本にした。担当がプロジェクターで表紙を作ってくれて、それを一発目にぼーんと出した時に、生徒達がおおっ！ていいまして。校長でもこういうのを読んでいるんだと。横溝正史知ってる？と呼びかけたら、みんな知らないんです。で、「犬神家の一族」知ってる？と聞いたら、ああ、て言ったんです。池から足が出てるやつ、ああ知ってる知ってるみたい。そうしたところがですね、実は事後のアンケートをとったら、校長が読んだ本が読みたいと。この前廊下でも先生、先生この前の本教えてと女の子が。まああれは古すぎるからせめて犬神家とか面白いのがあるからと。そこでふと思ったのがここに書いてありますけど本って割と子どもたち、さっき校長って純文学読んでいるのではないかと。そういうイメージでとらえている。でもこういうのあるよ、ああいうのあるよと、とっつきやすいものをどんどん紹介してもいいのかなという事で、すごくそれを感じた。それでさっきのチラシの裏のこんな本あります、なのですが、やはりラディアンは認知度高いですが、ちょっと入りづらいところもあったりするのかな、イメージがあるのかなと。今年はおはなし会にも来ていただくという話もある。そこでも中学生におはなししていただけないというのがありますし、町の図書館ってこんなにハードル低いんだよみたい。読書集会終わった後に学校図書館の紹介やラディアンの紹介とかちょっといれたらよかったなと聞いていて思った。学校と図書館の連携が必要。おはなし会に来ていただけたら、実はラディアンにこんな面白い本があるよと言ってもらう。

事務局：図書館も呼んでいただければいきますので。

委員：そうですね。それが連携ということで。子供達は先ほども言いました通り、朝読書が非常に定着していますので、読書をする習慣とか面白さ楽しさは感じている。特にアンケートで1年生はまだつまらないというのが2割くらいいる。でも3年生になるとほとんどない。4~5%がまだちょっとかったりかなと。楽しいが6割くらいになる。1年生は4割5分くらい。土壌ができてくるのでそれをうまくもっていけたら。

会 長：1冊の本に絡んで他の関係する資料を紹介するとか、具体的に何冊かあげてあげるようなことをやればもっと広がる。そのへんは例えば図書館と連携とっていただいて、いろいろ紹介していただくといいと思う。

教育長：最近のアンケートで大学生の1ヶ月の読書で1冊も読まなかった、読書時間0が50%弱という衝撃的な結果がある。スマホだとか色々なところで文字は見ているのかも分からないが、いわゆる読書というのが50%くらい1冊も読んでいない。今校長先生が言われたのと、二宮中学校はまとめて読書週間みたいなのを年に数回やっていて、二宮西中は毎日朝の積み重ねをされていて。二宮中の方も読み聞かせをしてもらい、中学生がちょっと信じられないかもわからないが静かに聞いている、そういう状況がみられる。西中もまた今年やってくださるということで非常にいいなと思います。少々話がずれますが、今年二宮では空調が初めて特別教室に入った。それはプラスバンド等で近所のクレームが多くて締め切って練習しなくてはいけない。真夏に締め切って練習していますが、熱中症ギリギリというような状態で。また、音楽室と図書室がわりと通風の悪い、どういうわけか二宮の場合、奥まった場所に学校図書館があるのですが、今年音楽室か図書室のどちらかを選択して、一色小は図書室、それ以外は音楽室ということになった。来年度予算がつくかどうかは今の時点では分からないが、町長の考えとしては、入れるとしたら全校図書室に入れて、ついては図書室で授業を各教科でやってほしいと。西中は朝読をしていますが、社会科でとか理科でとか色々な関連した本があるので、空調が入った段階でこれはぜひ図書室をフルで使ってもらいたい。休み時間に行くのはまず不可能ですね。小学校も中休みというのが若干ありますけれど、外で遊ぶのが主で、昼休みは友達との話もあるし。図書室でぜひ授業をしていただいて、何か本や図書室と関係するような話題を少しでもいいから出してもらったり、校長先生のお話をしてもらったりとか、いろいろな形でまず学校図書館に子供が行く回数を増やす試みを教育委員会としてはしていきたいなど。先ほど委員さんから話がありましたが、小学校に入ると習い事が増えてなかなか子供も忙しくなる。ぜひ幼児期に力を入れるということと、あと中学生あたりにポイントを絞って、本の比重、中学生向け絵本でもいいし、校長先生も言われていたように、とっつきやすいものも中学生に沢山リクエストを聞いて町図書館におけたらいいなと町図書館の司書に言っているのですが、その辺がどうなるか。ぜひ中学生も声をあげてほしい、今年もまた町図書館で会合がある時にこんな本が欲しいよって、こんな本だったら友達もいっぱい読むよ、みたいな企画をしておりますので、ぜひご指導をよろしく願いいたします。

会 長：例えば調べものとかいろいろな宿題、特別なテーマの調べものとかを図書館と連携するとか、さっきの読み物でも色々な広がりがあるからそういうのを紹介する。持って行って展示するとか、図書館のを借りて紹介すればいいわけですから。また職員が行って色々話をするということもあります。子供の読書会というのも昔ありましたが、そういうのは中々大変でできないでしょうけど、まあ、学校の図書館を使わせていただいて、色々な活動をやれたらいいかなというのは確かにあるんですね。だから学校の司書の方がいられるから、その方と連携させていただいて、色々計画をたてるとか。おはなし会の方もいられますし、あんまり余分な手をかけないで、できるだけそういうふうにみんなに読んでもらえるような方法があるのではないかと思いますけどね。

委 員：今の関連のことで、やはり中学生は物理的に中々図書館に来る時間が本当にはないですね。

土日も部活があつて、7時までに来れるかと言ったら本当に来れないかなど。長期休みのときに来るくらい。私たちが行かせていただいて本を紹介してもなかなかここまでいいなと思つても借りに来ることができないので、今話があつた学校の図書館にきつと何か関連のものとかあるはずですし、学校司書さんもとても頑張って今の子供たちにぴったりの本を様々選んでくださっていると思うので、図書館って読み物だけじゃない、スポーツの本があつて、様々な分野の本がある。図書館は自分の生き方に出会うところと言われているので、読み物じゃない本にも、教育長さんがおっしゃったようにそこで授業とか行くきっかけさえあれば、それぞれの子どもたちが自分の興味のある分野の本を手に入る機会があるかなと思うので、ボランティアとか先生とか司書さんとか、学校司書さんが少し、予算がない中でも連携をとるだけでも子供たちが出会えるきっかけになるかなと思うので、連携をとらせていただきたいなと思います。

会長：ではそういうことで。他にありますか。

委員：今のとちょっと関連していますが、中学一年生のお子さんが50%くらいかつたるいつて思っているというお話を聞いて、私たち5、6年生にはおはなしと絵本を中心にしていますが、最近ブックトークというのが少ないなと感じていて、メンバーの中にもブックトークをしたいという話があつたんですね。二宮小学校は学期に1回くらいしか入っていないのですが、他の学校は毎月5、6年生も入っているので、学期に1回位はブックトークとして、絵本から移行していく時期でもあるので、読み物も紹介するという活動をおはなし会でもできないかなとちょっと今お話を聞いていて感じた。

会長：ストーリーテリングとかだけじゃなくて、本の紹介を合わせてできるような感じがあれば。

委員：少しでも、出だしだけでも。

会長：色々なものを紹介できると。その辺はまたどうやって進めるとかありますけどね。少しずつね。なかなか中学生は、大人でも最近本を読まないですから、大学生だって半分も読んでいないですから、読書普及なんてなかなか今は難しい。でも何かの機会で本に触れられるようになると、それをもとで読むようになりますから、できるだけ機会を増やしてあげるのがいいかなと思いますので、学校の図書館は当然色々やっていただいて、町立図書館も当然やるし、色々な機会で本に接するようなできるような形をとればいいわけですよ。結局ネットワークみたいな、総合的に色々な人が手伝って、その場所場所で色々なことができれば、もっと出てくるかもしれないですね。図書館だけでやるのではなくて、学校も入るしみんな入ってやるような体制がとればよいわけですね。そうでないと子供はなかなか、家庭単独では厳しい。周りがそういう雰囲気を作つてあげられたらいいですよ。

教育長：例えばこの先相澤るつ子先生の平和の教材で絵本を学校にも1冊置いてありますけれど、社会科の授業でこの本はこれこれこうだとかちょっとさわりを話してみるとか、学校のカリキュラムの中での位置づけはですけれども、各回でテーマごとに例えば理科の授業で年間チャレンジ教室なんていうのもありますけれども、そういう方が来られて本の紹介をしつつ授業者につなぐとか、チームティーチングのような形で授業をする機会が年間1回でもあつたら本とつながるなって、ぜひ開かれた授業というかぜひそういうのを追及していただけたら。

委員：この本はですね、第二次世界大戦を日本側から見た、日本語と英語と違います、翻訳じゃなくて、いところがアメリカ人でいて、日本語の文章を送つたら日本人だけが大変でひどい

目にあったわけではないみたいな言い方したら、誰が始めたのだともものすごい反撃を受けて、アメリカの若者達がこれだけ死んだって言われて英語の文を変えたのです。それが私の言いたかった部分で、英語と日本語が読める人はいいですねと言ってくれますが、全然日本語は日本語だけ、英語は英語だけ、アメリカ人は日本人が何を書いているかを読めないわけですよ。だからニューヨークでも言ったんだけど、両方読める人が、つまり中学生や高校生に読んでほしかったのは、英語は文法的な翻訳じゃない、全く見方が違うということを知って欲しくて。だから私はあんまりそれをやりたくはないですけど、それがあってうちのいとも協力してくれてやったのですが、それを説明してもみなさん反応がない、みなさん英語が嫌いだからという感じで。ただ英語を勉強するという事はそういうことだということを分かってもらいたいなと思う。難しい言葉はできるだけさけてやさしい言葉にしたけど、言い回しが易しい言葉だけひとつ違えば全く変わってしまうのですよ、英語は。で、日本語もそうですけどね、ちょっとの言い回しで変わるでしょ。それであの戦争を他の目から見ると。いくらアメリカ人に言っても英語しか読んでいないからふんふんって読むだけです。日本人は日本語でふんふんって。本というのはそういう仕掛けが必ずしてあるので私は微力ながらやりましたが英語の先生ではないので。でも、それがそうすると何が今、子どもの本を自分がやっていると、なにがあれかっていうと、この現実の世界がそういうところで反映されていて、それでみんなの目が、見えなかったものが見えてくるよと、本を読むというのはそういうことだよと、だから面白いんだよと言いたいわけですね。ですので、いつでも、英語の発音があまり良くないので言いたくないですが、英語の勉強をするのはそういうことだということをわかってもらいたいなって。面白いよっていうことを、日本語の思いを翻訳してアメリカ人に言ったらどんな目にあうか、何も知らないで言ってしまうと、それが人種差別だったら、それでとても誤解されてしまうのです。ですので、これからインターナショナルに、グローバルに生きていくのに英語を教えたりする時に落とし穴。そうすると面白くなります、勉強することが。そういうこともあって本というのはそういう見える見えないものが出てくるのだと、それが一番大事なかなと思います。

会 長：まあ本を読んでくれないと分からないから。できるだけ機会を作って読んでもらうようにする。本はもう一つ調べるという要素がありますから、調べるような形も取れば良いと思って。機会を多くして、学校の図書館もできるだけ活用していただくような形をとる、図書館も色々協力するとかですね。そういうことで進んでいいでしょうかね。

議題(3)平成 29 年度二宮町図書館重点目標について

会 長：今の話でご意見等あれば。

委 員：昨年度から問題になっているティーンズコーナーの件なのですが、いよいよ学生さんを取り込んでいろいろ動きがでてきたなど、これからが楽しみです。それをこれからも積極的に続けていっていただきたいということを感じました。二宮高校の生徒さんも何か積極的にお手伝いしていただけるものがあれば、どんどんお手伝いしていただけるよう、開放的にやっていけるといいなと思います。

会 長：他にありますか。時間がだいぶきましたので、これでとりあえず終りにさせていただいて、

また何かあれば出して頂くことにして、議題の3まで一応終了させていただきます。

議題(4)その他

会 長：その他ですが、何か委員の方からありますか。もしなければ事務局の方から。

事務局：2点ございます。まず1点目ですが、会長より事前ご提案いただいている件で、昨年度、協議会の有志の方による勉強会をやっていただきまして、次回が10月の協議会になると思うのですが、それまでの間にもう少し掘り下げて色々なことを資料を基に分析等しながら、昨年は1回目はそういったことで、2回目はティーンズコーナーの報告があり、皆さんに意見を出し合っていたくというのをやりまして、それを10月の図書館協議会の資料として出すという形をとらせていただきましたが、また会長の方でそれをやってみたらどうかというお話をいただいていますので、ということでご説明をお願いします。

会 長：昨年2回やらせていただいて、今年度、先ほどの教育長のお話で予算的にも厳しい状況にありますし、一方でさっきお話ししたように利用者がだいぶ減ってきています。年間一人7冊貸出は上回っているのですが、これは今県内ではトップクラスにあります。減ってはいますがトップクラス。先ほどお話しした2008年の時点では一人10冊くらい借りていた。要するに3冊分くらい落ちた。落ちても他の館の利用も同じように落ちているので、まだ二宮はトップクラスにありますが、利用が落ちていることは確実に落ちていますし、利用者というか人口も先ほど言いましたように減っています。そういう状況で貸出とか必ずしも増やすかというのはありますので、できるだけもっと町民に利用していただけるにはどうしたらいいかということをもう少し突っ込んでやりたいというのが一つあるのと、できるだけ経費も節約するというのもう一つあって、ということは一方で、町民の方のご協力をうけて、その節減分じゃないですけど、できるだけ協力関係を作りながらサービスができるかということを進めた方がいいかなと思う。もっと具体的に言えば重点目標ですよ。今年度の重点目標でティーンズコーナーとか、もっと具体的に突っ込んで出しているかということですね。その中でこれは29年度ですが、30年度以降で重点目標をもっと具体的につめて、30年度ではどういうことをやるかということをしてしながら先ほどの経費とかもっと別の、利用者への普及とか、読書普及ですね、そういうものをやれないかと検討してみたい。具体的に30年度のものを出すためには10月に考え方のおおよそのものを出せないと、予算とかからできませんから、ということはその間で1回か2回勉強会をやらせていただいて、完全なものではないかもしれないが10月に一つはかなり具体性に出せないかなという感じです。その辺で勉強会をやっていいかどうかというのをちょっとご提案したい。

教育長：ぜひお願いしたいです。

会 長：人数は全員ということではなくて、ご都合のいい方で日程を組ませてもらってまあ1回から、去年は2回ですので多くて2回やらせていただいてもいいでしょうか。事務局に日程を調整していただいてまたご連絡させていただきます。ご欠席の場合はご意見をいただければいいかなと。内容は今年度、重点目標について特にご意見があれば見ていただいて、それ以外でもあればということをお願いできればと思います。

事務局：2点目ですが、お手元にある図書館だよりですが、こちら両方とも町内回覧はしたものです。こちらが通常の図書館だよりで、こちらは回覧分だけのものです。すでに若干ご意見

をいただいているんですが、お一人ずつ簡単でいいので。印象的なこととか。お願いします。

会長：図書館だよりは年4回ですよ。一つはテーマを作って、あとは人物紹介をやっていますよね。今年はガイド作成作業の関係でお休みしていますが、通常の年はゆかりの人物を入れて年4回組んでいるわけですが、これ部数は何部くらいですか？（回覧分は約1500部）一応町民の方には分かるように回っているわけですよ。年4回だからだいたい中身が入ってしまうから、作るのがなかなか大変な要素の一つ、テーマを立てるのが大変、ゆかりの人物もだんだんなくなってきているからその辺もありますけど。先ほどから出ているようにこれはかなり細かく色々な要素を、行事から何からみんな詰め込むような形で入ってきているのですよね。年に4回だから行事の日程とか事業とか色々入れ込まないといけなからやむを得ないところではあるかもしれないが、内容を全部つめこむかどうかですよ。例えば後ろは全部日程表にしちゃうとか。新着資料紹介と日程と事業とテーマですよ。4つで組んでいるからその辺で、それをやってもう一つこういう単独のビラみたいなものを作って、小中学生とか特別のテーマで作るとかやっていけばいいのかもしれないですけど。簡単に出すとよく分かるということであれば、この辺の図書館だよりはどのような方に周知するとか、全町民に周知する形で一つ作って、ここにはこういう一枚のビラで作るとか、そういう形でもいいのかもしれない。どういう利用をされているかというのを検証してみるといいかなというのがありますけど。もう一つ、このあいだ言いましたけど、書いてもいいかな。こういう欄を作って、さっきのファミリー読書もそうですけど、委員の人も書く要素を作ってもいいかなと思いますが、だめですかね。

委員：図書館だよりはとても分かりやすく簡潔にまとめられているようになって、かなり見やすくなったと思います。今回も最初のページが基金に関する事とか、どういうものを購入したということがきちんと紹介されていて、とてもいいと思います。実際どのような活動をしているのかがよく分かります。あとこの1枚ですよ。これもとってもいいと思います。呼びかけという形ではこういう風にぱっと何か目に入るもの、裏のページは特にこんな本ありますみたいな記事があったり、こういう感じで定期的に出せるといい。また、子供中心の時とか、大人中心の時とか。今回はこういう特集だとか、そういうのもやってもいいのでは。

委員：学校でも図書館だよりを出しています。いつも思うんですが、新着本が一覧で出るじゃないですか。本の題名がでてこれ読んでみようかなと思う生徒はだいたいいつも行っている生徒なんですよ。行っていない生徒にそれを見せて、あ一行こうかなって、借りようかな、読もうかなって思わせるためには、こういう本ですっていうのもよいのだけど、こういうのを、何ていうのかな、ミステリーみたいなもので本を読みたい人はおすすめみたいなものが一つ入っていると、新しく、内容はこういう話ですというのはいいのだけど、そうじゃなくて例えばラブストーリーが読みたいければこの本がいいですよとか、歴史の、だいたいよく読んでいる人は題名見て、誰が書いているかってみると内容がだいたい分かって読もうとするじゃないですか。初めての生徒はそれが分からないので、これは時代劇風とか、そういうのが書いてあると、あ！じゃあちょっと読んでみようかなというふうになるのではと思う。

委員：最近本屋さんとかでもそうですね。そういうポップが出ているので、司書さんの気の利い

たポップがあるといいかもしれないですね。

会長：年4回でそういうのをやるか、もっと単独で決めてさっきのミステリーの本で小中学生向きとかね。何か出すか。図書館だよりは年4回だからそれをやるとかなりの分量になりますよね。

委員：そういう時にはただ、思ったのですが、読み聞かせみたいな会の時に終わった時に、例えば今回はこういうのだから似たようなこういう本があるから読んでみたらとか、じゃあ今度こういう方面だったらこれがあるよとか2冊位ずつ紹介していくとかそういうのでいいのかなと思いますけれど。

委員：インターネットでそうやってやるとアマゾンとかであなたにおすすめの本とかでてくる。結構いいセレクトだったりする。そういうのを子供たちは慣れているから、おすすめされないとダメですよ。

委員：ずっと読んでいると背表紙とかこう見てればだいたい何となく分かるから本屋に行って余計に書いてあるのが逆に鬱陶しいよね、と思いますが、僕らは。

委員：おとなしいあなたにおすすめとかね。

委員：だけど初めて読もうと思うとか、ちょっと行ってみようかなという生徒にはそれで

委員：中学とかなら自分が分からなくなったときこの本を読むと分かるよとか。

委員：そういうのがあるといいかな。

委員：ちょっとそういうのがあるといいかもしれない。

教育長：校長さんは有名人だから、二宮で。さっきの話じゃないですけど、校長がおすすめの、って写真付きで。

委員：牛井屋に行ったんですけど、ああいうところ行くと結構キャッチーじゃないですか、ちょっとしたもの目が行く。ついこれ美味しそうとか。一割増とか。今回これはこれでいいんですけど、一押し！とか、そういうのをちょっと入れたらいいのかなと。一押しとか。

委員：あと、学校だよりを出していますが、文字ばかりだと読まないよとよく言われる。写真を入れたり字体を変えたりするんですけど、これはこれでいわれたようにまとまっていけないあとと思いますが、ちょっと残念だなと思ったのが3ページの主な催しのところの、やっぱりお互いに、おはなし会とか広げたいのはもっとちょっと強調するとか、全体的に図書館事業のことがわかるんですけど、それは他のところにまわしちゃってそれだけにしちゃうとか、ずらずらずらっときてその下に和歌山先生の話が、なんかこうずらずらずらっときているのもったいないなど。それともう一つ、このチラシは意味があると思うのですが、上の写真は人がいないので、人がいて楽しそうな方がいいかなと思う。子供たちがなんかこういるような感じとか。

委員：私も今言われたことは全部感じました。無理なことは分かっていると言いますが、カラーだったらいいかなとか。

委員：私はこの図書館だよりを回覧で回していただきたいとずっと願っていて、地区長さん達が大変な中頑張って回していただけるようにしてくれたと思うのですが、実際に自分の家に回覧板が回ってきて見た感じは、なかなかやっぱり読みにくいというか。バインダーでとまっているんですよ。地区のお知らせも何枚かあったりして、その中でバインダーをとってこれを開いて読むという人はどれだけいるかなとも思うのですが、回して欲しいと願っていて実現したのはとてもよい。はずして読む人もいますし。回覧するならこ

ちらかなと思い、こちらの回数を増やすのは今でも大変な中で難しいとは思いますが、重点目標として未利用者の利用..を増やすという目的と思うと、これはやはり利用者が読む感じのもののようなイメージがすごくとてもあって、今まで図書館を利用したことのない人へアピールできないと、もうこちらは読んでもらえないかなという感想をもちました。回覧板は何日も家に置けないので、なるべく早く回そうと思うと、じっくり読む時間は正直あまりない。

事務局：回覧を見たから図書館に配布用をもらいに来たという人もいる。

委員：やはり手元にもっていないと。

委員：最後に。せっかくこんなに寄付してもらっている諸星さんはもっとぱっと目に入った方がいいと思います。どーんと、諸星！みたいな。ちょっと弱い。もったいない。熟読したんだけどいいこと書いてあるなって。もったいないなというのが一つと、これは自分のところにないと読めないなと。すごくレイアウトもよくできているし、きれい。やっぱり回覧板だとさっといっちゃう。だいたい私は見ないことが多い。

事務局：内側を表にした方がという意見もある。

委員：こっちのページだけにするとか。

委員：もったいないなと思うのは空白。色々書いてあることをここに言葉で一言こういう本だよとか、こういう話だよとか、この写真集はこういうものだよとか、キャッチコピーがここに入らないと読まない。「育ジイ」はおじいちゃん向けだよとか孫に嫌われないためにとか。いつもどきっとくるような。世界の子どもたちでもあると思います。キーワードが、それをいれる。あなたの知らないところにこんな子がいるとか。オカリナはだれでもできる誰でも作れる。やってみようとか。部活本だって、みんなが悩んでいる部活だけど、この本さえ読めば！みたいなキャッチコピーをいれてほしい。色々濃い説明が書いてありますが、漢字もできるだけ減らして黒く見えない文にする。いいと思います、もったいない。あとちょっとでだいたい80点くらい。頑張ってください。ほんと、もったいない。これもここにかわいいくまさんを描いてあげるから。あと(図書館に)ソファがあるといい。カフェ併設の本屋に行くといいソファがいっぱいあるでしょ。みんなお茶飲みながらなんだけどね、あそこいっぱいいるのね。

事務局：居心地がよさそう。

委員：素敵なおソファがあるのよ。ソファで寝転んで本を読むなんて極楽じゃない。土足はダメって書いてもいいけど、ソファをおいてリラックスできるように。お母さん達が何で図書館に入れなかったっていうと、子供が泣いたらどうしよう、子供が本を汚したらどうしよう、何か言われるのではないか。ティーンズだっておしゃべりしたらしくかたにねという目線を感じるから嫌なわけで、だからそうじゃないよっていうことを、ちょっとくらいひそひそ話オッケーよとか、お母さんに子どもが泣いても大丈夫とか、本当は大丈夫じゃないかもしれないけど、どこまで許容範囲というのをいれてあげないと、最初の関門が入れない。やっぱりうちの子はダメだからって行って人生乗り遅れちゃうんですよ。本を読んでないから図書館に連れて行っても本を自分が選びたい本を引き出せない。引き出して開ければいいのにそれが出来ない。だからとにかく抵抗感をなくす。そうするとやっているうちに勘で私なんかその本がでてくる。これは場馴れですよ。場馴れさせるっていうことでここに抵抗感をなくす。とにかくみんな怖いわけよ、怒られるのではないか、図書館員

の怖い先生、みんな思っている、だいたい本読んでいる人は偉い人みたいに思う、それをなくせばこれが絶対活きると思う。あとちょっと。

会 長：結局、全部詰め込んでいる。4回だから必要な事業とか年間のあれこれ詰め込むからこういう風な形になってしまう。単独のテーマで本の紹介とか別でやってもいい線もありますよね。

事務局：本の紹介ページだけでもいいかもしれない。

委 員：あと図書館はこわくないよ、という。

会 長：ご意見をいただきましたが、またあらためましょう。どうもありがとうございました。さらにご意見等あれば勉強会の時にまた色々だしていただければと思います。それでは終わります。ありがとうございました。